

専門分野 I

【 基礎看護学 】

授業科目	看護学概論	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にする。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として学ぶ。 3. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について学ぶ。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、看護活動のありかたを学ぶ。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を学ぶ。		
回	主 題	内 容	授業方法
1回	1. 授業ガイダンス 2. 看護とは	1)看護の語源・定義 2)看護の構成要素 3)看護の主要概念	講義
2・3回	3. 看護の対象としての人間	1)統一体としての人間 2)人間の欲求 3)患者の心理 4)人間の発達と発達課題 5)生活者としての人間	講義 課題レポート
4・5回	4. 健康の概念と国民の健康	1)健康のとらえ方 2)生活と健康 3)国民の健康状態 4)国民のライフサイクルと健康・生活	講義
6・7回	5. 対象の生活の場としての環境	1)環境とは 2)ナイチンゲールの捉える環境と健康回復の役割	講義 グループワーク
8・9回	6. 看護の役割と機能	1)看護ケア・ケアリング 2)看護の質保証 3)看護の活動の場と連携	講義
10・11回	7. 看護の変遷と看護理論	1)理論とは 2)理論の歴史と動向 3)看護理論の理解と活用	講義 グループワーク 課題レポート
12・13回	8. 看護職員と保健医療福祉サービスの理解	1)看護職員 2)保健医療チームと看護チーム 3)看護活動の場所	講義 フィールドワーク
14回	9. 看護における倫理	1)倫理原則 2)現代医療における倫理問題 3)看護者の倫理綱領	講義
15回 (45分)	10. 看護をめぐる制度と政策	1)看護制度と看護行政 2)看護サービスと経済の仕組み 3)社会の変化とこれからの看護 4)国立病院機構の役割	講義
評価方法	筆記試験、レポート評価		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学①(医学書院) 新版 看護者の基本的責務(日本看護協会) フローレンス・ナイチンゲール:看護覚え書き(現代社) ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)		
参考文献	看護の本質(現代社)		

授業科目	看護倫理		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 看護における倫理の重要性を理解する。 2. 医療・看護をめぐる倫理的問題を理解する。 3. 看護職の倫理規定を理解し、看護実践における倫理的問題の取り組み方を理解する。			
回	主 題	内 容		授業方法
1回	1. 現代社会と倫理	1) 看護倫理を学習する目的 2) 倫理、道徳、法 3) 看護倫理とは 4) 看護倫理の主要概念 5) 職業倫理としての看護倫理		講義 演習
2回	2. 看護倫理の歴史的経緯 3. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理	1) 医療における倫理問題 2) 看護職の倫理綱領の変遷 1) 生命倫理の4原則と看護の倫理原則 2) 倫理的ジレンマ		講義
3回	4. 倫理的問題へのアプローチ	1) 倫理原則を用いたアプローチ 2) レストによる道徳的行動の4要素を用いたアプローチ 3) ジョンセン4分割表を用いたアプローチ		講義 演習
4・5回	5. 看護実践における倫理問題への取り組み(1)	1) 様々な看護場面における倫理的的分析と倫理的意思決定 (1)人間の尊厳に関する事例 (2)信頼関係・意思決定に関する事例 (3)知る権利と自己決定に関する事例 (4)個人情報と守秘義務に関する事例		講義
6回	6. 看護実践における倫理問題への取り組み(2)	1)学生が実習で体験しやすい事例を基に看護実践における倫理的的分析と倫理的意思決定 (1)情報収集の場面での患者さんとの関係に関する事例 (2)看護ケアの場面に関する事例		講義 演習
7回	7. 看護実践における倫理問題への取り組み(3)	1) 学生の臨地実習時の看護実践における倫理的的分析と倫理的意思決定 (1)看護学生の倫理的ジレンマの場面事例検討		講義 演習
評価方法	筆記試験、課題提出			
テキスト	系統看護学講座 専門1 看護学概論, 医学書院.			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (看護技術の基本原則、コミュニケーション 記録・報告、安全確保の技術)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	11
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護における安全・安楽の概念と安全・安楽を阻害する要因を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と基本的な方法を理解する。 3. 記録・報告の意義と方法を理解する。 4. 事故防止における看護の責任と生じやすい事故に対する防止策を理解する。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 看護技術の基本原則	1) 安全の概念と阻害要因 2) 安楽の概念と阻害要因		講義
2～3回	2. 人間関係の技術	1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4) 効果的なコミュニケーションの実際 5) コミュニケーション障害への対応		講義 演習
4回	3. 記録・報告	1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成		講義
5回 6回(45分)	4. 安全確保の技術	1) 誤薬防止 2) チューブ類の予定外抜去防止 3) 患者誤認防止 4) 転倒・転落防止 5) 薬剤・放射線曝露の防止		講義
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (指導技術・感染予防)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	18
			テスト時間	試験別
学習目標	5. 健康の自己管理を支援するために必要な教育・指導の基礎知識を理解する。 6. 感染予防の基本的知識・技術を習得する。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回～3回	1. 指導技術	1) 看護における教育・指導の意義・目的 2) 個人・家族・集団を対象とした教育・指導 3) 教育・指導の技術 (1) 個別指導・集団指導の特徴と適用 (2) 対象者に合わせた指導方法 (3) 媒体の工夫		講義 演習
4回	2. 感染予防の基礎知識	1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 3) 標準予防策 感染経路別予防策		講義
5回～8回	3. 標準予防策	1) 手洗い 2) 手指消毒 3) 個人防護具の着用・脱ぎ方 4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 無菌操作 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) 滅菌物の取扱い ① 鑷子の取り扱い ② 滅菌手袋の装着		講義 演習
9回	4. 針刺し事故	1) 針刺し事故防止		
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床漢語技術 第2版			
参考文献				

授業科目	日常生活の援助技術Ⅰ（環境）		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1（45分）
学習目標	1. 環境因子が人間に及ぼす影響を理解する。 2. 療養環境の調整に対する看護の役割が理解する。 3. ベッドメイキング、リネン交換、環境整備の基本的な方法について、知識・技術を修得する。 4. 療養する対象の環境整備の必要性と方法について考える。			
回	主題	学習内容及び方法	授業方法	
1回	1. 人間と環境	1)環境の意義 ①環境とは ②人間と環境 ③看護学における環境 ④快適な環境とは	講義	
2回	2. 療養生活の環境	1)人と環境 2)療養生活と環境 3)生活環境の調整	講義	
3回	3. 生活環境のアセスメントと調整	1)病室の環境と病床内環境	講義 演習（実習室）	
4回		2)病床を整える援助技術		
5回		3)援助の必要性 4)演習 照度・音・温度・湿度設定		
6回	4. 援助の実際	1)ベッド周囲の環境整備	講義	
7回		2)リネンの取り扱い	演習（実習室） デモンストレーション	
8回		3)ベッドメイキング	演習（実習室）	
9回				
10回				
11回		4)臥床患者のシーツ交換	演習（実習室）	
12回				
13回	5. 病室・病床の環境調整	1)患者の状態に応じた環境調整	講義	
14回		療養環境のアセスメント 2)環境整備の実際	グループワーク 演習（実習室）	
15回	6. まとめ（45分）		講義	
評価方法	技術試験、筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）			
参考文献				

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 食事・栄養に対する看護の役割を理解する。 2. 食事の援助を安全・安楽に実施するための基本的知識・技術を修得する。 3. 排泄に対する看護の役割を理解する。 4. 排泄の援助を安全・安楽に実施するための基本的知識・技術を修得する。		
回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1. 食事の意義 2. 健康を害した人の食事の必要性 3. 看護師の役割	・身体的・心理的・社会的意義 ・食事援助における看護の対象 ・食事援助における看護師の役割	講義
2回	1. 「食べる」ための体のしくみとはたらき 2. 食べるためのアセスメントの視点 3. 栄養状態のアセスメント	・食欲、嚥下・咀嚼、消化・吸収のしくみとはたらき ・食べるための各機能のアセスメントの視点 ・栄養管理の必要性 ・栄養管理方法の選択(栄養補給経路)	講義
3回	1. 食事介助の基本 2. 状態に応じた食事介助 3. 健康障害時の食事	・食事介助時の環境調整 ・食事介助により生じる問題と問題を回避する方法 ・視覚障害・高次機能障害・嚥下障害の食事介助 ・経静脈栄養の種類 ・経静脈栄養により生じる問題	講義
4回	1. 健康障害時の食事(経腸栄養、経鼻胃管栄養、胃瘻)	・経腸栄養の種類 ・経腸栄養により生じる問題と問題を回避する方法 ・経鼻胃管栄養により生じる問題と問題を回避する方法	講義
5回	1. 食事介助	・食事介助の基本	演習(実習室)
6回	1. 自然排泄の意義 2. 看護の対象 3. 看護師の役割 4. 健康な人の排泄 5. 排泄援助のアセスメントの視点	・身体的・心理的・社会的意義 ・排泄援助における看護の対象 ・排泄援助における看護師の役割 ・「排尿をする」「排便をする」を構成する体のしくみとはたらき ・排泄に影響を及ぼす因子 ・排尿・排便のアセスメントの視点	講義
7回	1. 状態に応じた援助の決定 2. 排泄行動に対する援助	・排泄行動、排泄機能に対する援助の種類 ・ポータブルトイレにおける排泄援助 ・床上排泄とは ・床上排泄により生じる問題と問題を回避する方法	講義

8回	1. 排泄行動・排泄障害時の援助	・尿器・便器を用いた床上排泄の援助	演習(実習室)
9回	1. 排泄障害(排尿障害)の基礎知識 2. 排泄障害(排尿障害)の援助: 導尿	・排泄機能の障害とは ・排尿障害とは ・排尿障害の種類と原因 ・導尿の種類: 一時的導尿、持続的導尿 ・導尿により生じる問題と問題を回避する方法	講義 デモンストレーション
10回	排泄障害時の援助: オムツ	・状態に応じた援助の決定(オムツ着用の目的と適応) ・オムツ着用により生じる問題と問題を回避する方法	講義
11回	1. 排泄行動・排泄障害時の援助	・オムツ交換	演習(実習室)
12回	1. 自然排便への援助 2. 排泄障害(排便障害)の基礎知識 3. 排便障害時の援助: グリセリン浣腸 4. 排便障害時の援助: 摘便	・排便障害とは ・排便障害の種類と原因 ・状態に応じた援助の決定(グリセリン浣腸の目的と適応) ・グリセリン浣腸により生じる問題と問題を回避する方法(摘便の目的と適応) ・摘便により生じる問題と問題を回避する方法	講義
13回	1. 排便障害の援助	・グリセリン浣腸	演習(実習室)
14回	1. 健康障害時の食事	・経鼻経管栄養	演習(実習室)
15回	まとめ(45分)		講義
評価方法	筆記試験、レポート課題		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

授業科目	日常生活の援助技術Ⅲ（活動・休息）	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1（45分）
学習目標	1. 人間にとっての活動の意義と不活動状態による心身への影響を理解する 2. 歩行介助、体位変換、移乗・移送を安全・安楽に実施するための基本的知識・技術を修得する。 3. 人間にとっての睡眠・休息の意義を理解する 4. 自然な入眠を促すための基本的看護の知識を理解する 5. 安楽を確保するための基本的知識・技術を修得する		
回	主 題	学習内容及び方法	授業方法
1回	基本的活動の援助	基本的活動の基礎知識：活動とは	講義
2回		活動アセスメント	講義
3回		姿勢と体位 ボディメカニクスについて 体位変換の目的、方法、留意点 事故防止のポイント	
4回	移動（体位変換）	水平移動、仰臥位 ⇄ 側臥位 仰臥位→ 長座位 → 端座位 端座位→ 立位	演習
5回			
6回		移動（歩行・移乗・移送）	講義
7回		ROM 訓練	
8回		歩行・移乗・移送について	演習
9回		車椅子・歩行補助具（歩行器、松葉杖、T字杖）	
10回		ストレッチャー移乗・移送	講義・演習
11回	苦痛の緩和・安楽確保の技術	安楽確保の技術・体位保持（ポジショニング） 仰臥位、半側臥位、ファーラー位、腹臥位	講義
12回		安楽確保の技術・体位保持（ポジショニング） 仰臥位、半側臥位、ファーラー位、腹臥位	演習
13回	罨法	罨法の目的、方法、留意点 （温・冷）温罨法の作り方	講義・演習
14回	睡眠・休息の援助	身体ケアを通じてもたらされる安楽 休息・睡眠のメカニズムと援助	講義
15回		まとめ（45分）	講義
評価方法	演習参加状況 筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術（医学書院）		
参考文献			

授業科目	日常生活の援助技術Ⅳ（清潔・衣生活）		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 人間にとっての衣服・清潔の意義を理解する。 2. 健康障害時の衣生活・清潔に対する援助の必要性を理解する。 3. 健康障害時の清潔を保持するための基本的な援助の方法を修得する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	清潔援助とは	<ul style="list-style-type: none"> 健康な人の清潔の意義 健康を害した人の清潔援助の必要性 清潔援助の看護師の役割 		講義
2回	清潔援助の基本	<ul style="list-style-type: none"> 清潔援助により生じる問題と回避する方法 清潔援助の基本 全身的な皮膚の清潔（入浴・シャワー浴） 		講義
3回	衣服とは	<ul style="list-style-type: none"> 健康な人の衣服を用いることの意義 衣服を着用することによる効果 健康を害した人にとっての寝衣交換の必要性 状態に合わせた寝衣交換 		講義
4回	全身的な清潔	<ul style="list-style-type: none"> 状態に応じた清潔援助技術（清拭） 		講義
5回	寝衣交換	<ul style="list-style-type: none"> 臥床患者の寝衣交換（前開きパジャマ） 		演習・実習室
6回	清拭	<ul style="list-style-type: none"> 臥床患者の部分清拭（両上肢、両下肢） 		演習・実習室
7.8回	清潔援助	<ul style="list-style-type: none"> 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 		演習・実習室
9回	部分的な清潔	<ul style="list-style-type: none"> 手浴・足浴の意義と効果 状態に応じた手浴・足浴の援助技術 陰部洗浄の意義と効果 状態に応じた陰部洗浄 		講義
10回	部分的な清潔	<ul style="list-style-type: none"> 洗髪の意義と効果 状態に応じた洗髪援助技術 口腔ケアの意義と効果 状態に応じた口腔ケア 		講義
11回	整容とは	<ul style="list-style-type: none"> 整容の意義と効果 整容の援助技術（爪切り・耳・髭剃り） 		講義
12.13回		<ul style="list-style-type: none"> 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 		演習 実習室
14.15回	部分的な清潔援助	<ul style="list-style-type: none"> 臥床患者の部分的な清潔援助（洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄） 		演習 実習室
評価方法	筆記試験、技術試験、講義・演習参加態度、演習課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術（医学書院）			
参考文献				

授業科目	フィジカルアセスメント		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1単位
			時間数	30時間
講師名	診療看護師 看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護に必要なヘルスアセスメントの意義、方法を理解する。 2. 循環器系、呼吸器系、消化器系、感覚器系、神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。			
回数	主題	学習内容及び方法	授業方法	
1回	ヘルスアセスメント	1) フィジカルアセスメントとは 2) ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義と目的	講義	
2回	ヘルスアセスメントの実際	1) フィジカルアセスメントの方法 (聴診・打診・触診・視診・問診) 2) 健康歴の聴取・心理社会面のアセスメント	講義	
3回	バイタルサイン測定	1) 全身状態の観察 2) バイタルサイン測定(体温)	講義	
4回	バイタルサイン測定	1) バイタルサイン測定(脈拍・呼吸)	講義	
5回	バイタルサイン測定	1) バイタルサインの測定(血圧)	講義	
6回	意識の観察 身体各部の計測	1) 意識状態の観察・アセスメント 2) 身長・体重・胸囲・腹囲・皮下脂肪厚測定	講義	
7回	バイタルサイン測定	1) バイタルサイン測定	演習 実習室	
8回	バイタルサイン測定	1) バイタルサイン測定	演習 実習室	
9回	バイタルサイン測定	1) バイタルサイン測定	演習 実習室	
10回	バイタルサインの測定	1) 全身状態・バイタルサイン測定の実際アセスメント	演習 実習室	
11回	系統別看護	1) 頭部・頸部のフィジカルアセスメント 2) 眼・耳・鼻・口腔・咽頭のフィジカルアセスメント	講義・演習	
12回	系統別看護	1) 循環器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
13回	系統別看護	1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	講義・演習	
14回	系統別看護	1) 消化器系のアセスメント 2) 皮膚・爪・髪 of フィジカルアセスメント	講義・演習	
15回	系統別看護	1) 筋骨格系・神経系のフィジカルアセスメント 2) 系統別看護まとめ	講義・演習	
評価方法	筆記試験・技術試験			
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門I基礎看護技術I 基礎看護学②(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)			

授業科目	看護過程	対象学年・時期	1年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	30
		テスト時間	課題評価
学習目標	1. 看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキングなどの看護過程の基盤となる考え方を学ぶ。 3. 看護過程の各構成要素について、基本的な考え方を習得する。		
回	授業計画・内容	授業方法	
1回	1. 看護過程とは 1) 看護過程の必要性 2) 看護診断の発展	講義	
2回	2. 看護過程の基盤となる考え方 1) 問題解決思考 2) クリティカルシンキング	講義 演習	
3回	3) 倫理的配慮と価値判断	講義	
4回	3. 看護過程の構成要素 1) 情報収集 (1) 情報収集の技術 (2) 主観的データと客観的データ	講義 演習	
5回	(3) 情報のもつ意味 (4) 情報を分析する道筋	講義	
6回	2) ゴードンの機能的健康パターン (1) アセスメントの指針	講義	
7回 8回	(2) 看護上の問題を明確化する段階 ① 関連図	講義 演習	
9回	3) 看護上の問題の特定 (1) 看護診断 (2) 優先順位	講義	
10回 11回	4) 目標の設定 5) 具体策の立案 6) 実施 7) 評価	講義	
12回～15回	4. 事例を用いた看護過程の展開 事例: 成人期にある肝硬変(非代償期)の患者	演習	
評価方法	演習課題、演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版 看護診断ハンドブック 第11版		
参考文献			

授業科目	診療に伴う技術 I	対象学年・時期	1 年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1 (45 分)
学習目標	1. 診療と検査の目的を理解する。 2. 診察・検査時の看護師の役割を理解する。 3. 対象の心身の苦痛を最小限にして、安全に採血を行う技術を習得する。 4. 呼吸・循環を整える技術を理解する。		
回	主 題	学習内容及び方法	授業方法
1 回	1. 診察・検査を受ける人への看護	1)診察の目的と種類、診察の方法 2)診察時の援助、診察時の看護師の役割 3)検査の意義・検査の種類 4)検査における看護師の役割	講義
2～3 回	2. 検体検査と援助の方法	1)尿検査 2)便検査 3)喀痰検査 4)簡易血糖検査 5)血液検査	講義
4 回	3. 生体検査の援助の方法	1)X 線検査 2)CT 検査 3)MRI 検査 4)RI 検査 5)内視鏡検査 6)超音波検査	講義
5～6 回	4. 静脈血採血の目的と方法	1)注射器・針・真空採血管の取り扱い 2)実施時の留意事項	講義 デモンストレーション
7～8 回	5. 静脈血採血の実際	1)真空採血管による採血 2)注射器による採血	演習
9 回	6. 生体情報のモニタリング	1)心電図検査 2)心電図モニター 3)SPO ₂ モニター	講義
10 回	7. 穿刺時の看護	1)胸腔穿刺 2)腹腔穿刺 3)腰椎穿刺 4)骨髄穿刺	講義
11～12 回	8. 呼吸・循環を整える技術	1)口腔・鼻腔内吸引 2)気管内吸引 3)保温・体温管理 4)血糖測定	講義 演習
13～14 回	9. 包帯法	1)目的 2)包帯の種類 3)援助の実際	演習
15 回(45 分)	まとめ		
評価方法	筆記試験 レポート課題 技術試験		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)		
参考文献			

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 与薬の意義と看護師の役割、責任を理解する。 2. 与薬の種類と目的、安全・確実に実施するための方法を理解する。 3. 薬物療法を受けている対象の特徴と基本的看護を理解する。 4. 注射の種類と目的、安全・確実に実施するための方法を理解する。 5. 注射の準備、点滴静脈内注射の準備、およびモデル人形を用いて実施できる。		
回	主 題	学習内容及び方法	授業方法
1回	1. 薬物療法における基礎知識・看護師の役割・法的責任	1) 薬物療法の基礎知識 ①薬物療法の意義・目的 ②薬物の種類と取扱方法 2) 看護師の役割 3) 看護師の与薬における法的責任について	講義
2回	1. 薬物療法における基礎知識・看護師の役割・法的責任	4) 体内動態過程(吸収・分布・代謝・排泄)と与薬方法 5) 薬剤における医療事故	講義 グループワーク
3回	2. 与薬方法(内用薬、外用薬)	1) 経口与薬の援助方法	講義
4回	2. 与薬方法(内用薬、外用薬)	2) 各種与薬方法 直腸内与薬方法,点鼻法,点眼法,点耳法,塗布・塗擦法	講義
5回	3. 注射の基礎知識	1) 注射法の基礎知識 ①技術の概要 ②注射法と種類 ③薬剤の取り扱い	講義
6回	3. 注射の基礎知識	2) 注射器の取り扱い 3) 注射剤の準備	実技演習
7回	4. 各種注射法	1) 皮下・皮内注射 ①皮下注射・皮内注射の方法と留意点	講義
8回	4. 各種注射法	②皮下注射の実際(上腕)	実技演習
9回	4. 各種注射法	2) 筋肉内注射 ①筋肉注射の方法と留意点	講義
10回	4. 各種注射法	②筋肉注射の実際(中殿筋)	実技演習
11回	4. 各種注射法	3) 静脈内注射 ①点滴静脈内注射の方法と留意点 ②管理方法 ③輸液ポンプの取り扱い	講義
12回	4. 各種注射法	④静脈内注射の実際(ミキシング・プライミング・ルート固定・滴下調整)	実技演習
13回	4. 各種注射法	⑤輸液ポンプの取り扱いの実際	実技演習
14回	5. 吸入	1) 酸素吸入の実際(中央配管・酸素ボンベ)	講義・実技演習
15回	6. 浣腸	1) 浣腸の実際	実技演習
評価方法	試験(技術試験・筆記試験)		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学②(医学書院)		
参考文献	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		

授業科目	臨床看護総論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1単位
			時間数	30時間
講師名	看護師 ★ 臨床工学士		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 主要な症状を示す対象の特徴と基本的看護を理解する。 2. 輸血を受ける対象の基本的看護を理解する。 3. 手術療法を受ける対象の特徴と基本的看護を理解する。 4. 救命救急処置の基本的知識・技術を習得する。 5. 集中治療を受ける対象の特徴と基本的看護を理解する。 6. 危篤状態にある対象の特徴と基本的看護を理解する。 7. ME機器の原理と取り扱いの原則を理解する。 8. 臨床で行われる医療・看護をイメージし興味を示す。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	臨床看護総論とは 症状別看護	1)臨床看護総論とは 2)主要な症状を示す対象者への看護 便秘		講義
2回	症状別看護	1) 主要な症状を示す対象者への看護 痛み		講義
3回	症状別看護	1) 主要な症状を示す対象者への看護 嘔気・嘔吐		講義
4回	症状別看護	1)主要な症状を示す対象者への看護 脱水・浮腫		講義
5回	症状別看護	1) 主要な症状を示す対象者への看護 呼吸困難・喀痰		講義
6回	症状別看護	1) 主要な症状を示す対象者への看護 意識障害・ショック		講義
7回	輸血管理	2) 輸血製剤の種類と取り扱い方法 3) 輸血方法、輸血を受ける患者の看護		講義
8回	手術療法を受ける 対象者への看護	3) 手術療法とは (1) 手術療法の目的 (2) 周手術期における看護の役割 (3) 手術療法による生体侵襲 4) 周手術期の看護 (1) 手術前の看護 (術前指導・術後合併症のリスクアセスメント) (2) 手術当日の看護 (3) 手術室における看護 (手術体位・外科的手洗い・外科的ガウンテクニック・麻酔による影響・術中の安全管理) (4) 手術後の看護(術後合併症予防・疼痛管理)		講義
9回	救命救急処置	1) 一次救命処置(緊急時の応援要請・意識レベルの観察・気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫・AED) 2) 気道異物除去 3) 止血法 4) 体温の保持・冷却		講義

		5) 家族への援助	
10回	救命救急処置	1)一次救命処置(緊急時の応援要請・意識レベルの観察・気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫・AED)	講義・演習 認定看護師
11回	創傷とは	3) 創傷とは 4) 創傷の治癒過程 5) 創傷の処置と看護	講義・演習 認定看護師
12回	集中治療を受ける対象者への看護	3) 集中治療とは 4) 集中治療を受ける患者・家族の特徴、看護援助	講義・認定看護師
13回	ME 機器	2) ME 機器とは 3) ME 機器の種類と原理	講義・臨床工学技士
14回	危篤時・死亡時	1) 危篤時・死亡時の看護・グリーフケア	講義
15回	臨床看護総論まとめ	1) まとめ	講義
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学③基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学④臨床看護総論 医学書院 講義から実習へ 周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 講義から実習へ 周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 第4版 学研		

授業科目	看護研究		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	26
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性を理解する 2. 看護研究の方法の基礎を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 研究とは	1) 研究とは何か 2) 看護研究とは 3) 研究のプロセス		講義
2回	2. 看護研究のはじめ方	1) リサーチクエスト ①リサーチクエストの設定までのプロセス 2) 文献検索 ①文献検索の重要性 ②文献検索の方法および実際		講義・演習 (教室・情報処理室)
3回	3. 文献検討	1) 文献の読み方 2) 文献レビューの記述と実際		講義・演習
4回	4. クリティーク	1) クリティークの実際		講義
5回	5. 研究の設計と方法1	1) 質的研究と量的研究 2) 研究デザイン 3) 概念枠組み		講義
6回	6. 研究の設計と方法2	1) 研究デザインの種類と特徴 2) 研究における倫理的配慮		講義
7・8回	7. データの収集と分析	1) データとは 2) データ収集法 3) 質的データと量的データの収集方法 4) データ分析の基本		講義
9回	8. 研究方法の検討と立案	1) テーマの設定 2) テーマの妥当性の確認 3) 研究内容の具体化		講義
10・11回	9. 論文の書き方及び研究成果の公表	1) 研究計画書とは 2) 研究計画書の書式と書き方 3) 研究計画書の作成		講義・演習
12回	10. 論文の書き方及び研究成果の公表	1) 研究結果の書き方 2) 研究結果の発表 3) 論文作成時の留意点		講義・演習
13回	11. まとめ	筆記試験及びまとめ		
評価方法	筆記試験および提出物			
テキスト	横山美江：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方（医歯薬出版）			
参考文献				

授業科目	看護研究		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	非常勤講師		講義時間	4
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性を理解する 2. 看護研究の方法の基礎を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 研究に必要な統計手法	1) 統計解析 2) 正規分布 3) 変数の記述統計 ①定性的データ ②定量的データ		講義・演習
2回	2. 研究に必要な統計手法	1) 検定 2) 回帰直線と相関係数		講義・演習
評価方法	筆記試験および提出物			
テキスト	大木秀一：基本からわかる 看護統計学入門（医歯薬出版）			
参考文献				

授業科目	看護研究演習		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 看護実践の意味付けができ、ケーススタディとしてまとめることができる			
回数	主題	学習内容及び方法	授業方法	
1回	1. ケーススタディとは	1) ケーススタディとは 2) ケーススタディの意義・目的 3) ケーススタディの方法 4) ケーススタディの書き方 5) 研究テーマの設定 6) ケーススタディにおける文献検討	講義・演習	
2回	2. 文献の読み方	1) ケーススタディのクリティーク	講義・演習	
3回	3. ケーススタディの実際1	1) ケーススタディ計画書とは 2) ケーススタディ計画書の作成	講義・演習	
4・5回	4. ケーススタディの実際2	1) ケーススタディ作成	講義・演習	
6回	5. 研究成果の伝達および講評	1) 研究発表の方法と意義 2) 抄録の作成 3) 講評とは	講義・演習	
7・8回	6. ケーススタディ発表会	1) ケーススタディ発表 2) 相互評価・講評	発表会	
評価方法	演習課題および取り組み状況により評価する			
テキスト	松本孚他:新版看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)			
参考文献				